

A-1 研究主題

I 研究主題と副題

主題

『知識や技能を身に付け、生活や学習に活かす子の育成』

副題

「自分の考えを持ち、たがいに学び合う活動を通して」

II 主題設定の理由

本校の児童の実態として、学力調査等の結果、単に知識を問われるような問題に対しては、比較的正答率が高かったが、テキストを読解し、自分の考えやそう考えた理由を書くような活用を問う問題に対しては、無解答率が非常に高いという実態が明らかになってきた。昨年度、児童生徒の「活用力」向上モデル事業の指定を受け、この点について、その原因を探るとともに、改善に向けて、全教職員の共通理解を図りながら取り組んできた。

昨年度12月の標準学力調査等の結果の分析によると、全体的に無解答率が減りはじめ、自分の考えを問われる問題に対しても、あきらめず、考えて答えている様子が少しずつ見られるようになってきた。授業面でも、全校で統一した改善の取り組みを進めた結果、自分の考えを理由や根拠をもとに発言しようとする姿勢が感じられるようになってきた。

また、学習習慣の調査では、一年前に比べて向上を見せ、下位得点圏にいた児童の学習に対する姿勢が少しずつ変わり、これまでは、ほとんど家で学習する習慣がついていなかった児童も、保護者の協力を得て、徐々に家庭学習の習慣が定着を見せている。

しかし、昨年度の学力調査等の結果、B問題の正答率は、全国・県を下回るものもあり、思考力・判断力・表現力に対しての課題は多い。また、全国的に指摘されている「自ら学ぶ意欲」の低下を本校でも強く感じる。新学習指導要領では、今までよりさらに踏み込んだ「生きる力」の定着が求められている。本校の児童が、長文を読解する力が弱いことや、ねばり強く考えることを苦手としているという実態は、日頃から、授業の中で自分の考えを持つことや、それを伝える機会が少なかったのではないかということを表している。つまり、基礎基本の学習を習得した後の思考・判断・表現力に対する取り組みが弱かったためと分析できる。そこで、「書く」時間をきちんと確保し、考えや思いをまとめ、友達に伝える活動の機会を、さらに意識して授業に取り入れていく必要があると考えた。

この様な状況から、本校では、本年度も引き続き上記の主題を設定し、自分の考えを「書く」活動を通して、自己を表現する力をつけるとともに、「自ら学ぶ意欲」を生みだし、考えを伝え合いながら学ぶ楽しさを実感できるよう指導の改善に全校で取り組んでいくこととした。